

第4回 多摩市立図書館本館再整備基本計画検討委員会

日時：平成30年4月21日(土)午後1時から4時55分まで

場所：多摩市役所 西会議室

出席者：(検討委員会委員) 常世田委員長、松本副委員長、寺内委員、前田委員、
青木委員、辻山委員、井上委員、大石委員、佐藤委員、
古谷委員、横倉委員
(事務局) 清水教育長、須田教育部長、中島図書館本館整備担当課長、
笹原企画運営担当主査、澤井特定施設担当課長、
米山サービス係長、東本地域資料係長、長峰主任、福島主事
コンサルタント3名
(講師) 戸室 幸治氏(三多摩図書館研究所)

○ 開会

委員長：

第4回多摩市立図書館本館再整備基本計画検討委員会を開会する。
本日は委員1名から遅れて参加する連絡が入っている。10名の参加であり、
検討委員会として成立する。
事務局に配布資料の確認をお願いする。

(配布資料確認)

事務局：

・資料の補足説明：資料7「図書館本館再整備スケジュールと財政見通し」
今回の議事には直接関係ないが、議論の前提として、工程と財政見通しを共有
すべきだという市民意見があったため、参考資料として配布した。既に公表さ
れている内容を基にまとめたもの。
財政見通しに関しては、現時点で、延床面積 最大6,000㎡と仮定して積算し
たもので、検討委員会で検討する施設整備規模によりさらに精査していく必要が
ある。各種工事も同規模図書館の事例を参考に積算した概算であり、必要性を含
めて精査していく必要がある。

○ 報告等

委員長：

事務局から説明をお願いする。

事務局：

- 市民グループのヒアリング報告：詳細は配付資料1のとおり。
 - ・3月19日に2団体のヒアリングを行った。
「多摩市文庫連絡協議会」「地域図書館の存続を考える4会」
 - ・3月20日 障がい者利用の観点から意見をいただくお願いをした。
「多摩市地域自立支援協議会」4名から意見をいただいた。
- 事前公開資料に対する市民意見：詳細は配付資料5のとおり。
- 平成30年第1回多摩市議会定例会で、パルテノン多摩・周辺施設整備等特別委員会の最終報告があった。(特別委員会は3月末で解散)
常任委員会で引き続き検討すべきことの申し送りがあった。
図書館の計画づくりに関連するところを、口頭で報告する。
 - ・パルテノン多摩と図書館の連携について、司書と学芸員の連携、分散する文化財の一元管理をすること。地域図書館との連携と多摩市の文化芸術の未来についても、議論を深めるべきである。
 - ・パルテノン多摩・中央公園・図書館新本館の整備について、バリアフリーや障害者福祉の視点を強めるべきである。
 - ・パルテノン多摩と図書館の連携について、パルテノン多摩を利活用すると

いう発想が大切で優先すべきであり、それによって図書館新本館が華美なものにならないよう注意すべきである。

・図書館本館の整備については、省エネルギー、再生・自然エネルギーの視点を盛り込んだものにすべきである。

委員長： 報告いただいた内容を議論に反映したいと考える。

○ 議事

委員長： 事務局から議事進行の説明をお願いします。

事務局： 今回の検討委員会の大きなテーマは「資料」について。

冒頭に、戸室 幸治氏から「地域資料+行政資料」について講演していただく。戸室氏は以前大学で講師をされていて、現在は三多摩図書館研究所を主催されている。基本構想のパブリックコメントにご意見を寄せていただいた経緯もある。休憩時間中に、傍聴の皆さまから意見・質問を受け付ける。

(本日の議事進行説明)

1. 講演「多摩市立図書館本館再整備に求められるもの～地域資料サービスを中心にして～」

講師： 資料6「多摩市立図書館本館再整備に求められるもの」に基づき講演。

委員長： ありがとうございます。図書館の原理・原則について改めてお話ししていただき、リフレッシュした感がある。地域資料ということだったが、図書館の本質・存在理由、資料収集の原則についても共通する内容だった。

委員の皆さんから質問などはあるか。

副委員長： 日野市の市政図書室で行われているサービスや資料収集について紹介をしていただいた。そういった観点から、多摩市の図書館の行政資料室を見た感想をお聞きしたい。

講師： 資料6 p.13 に、日野市の市政図書室と多摩市の行政資料室の比較がある。多摩市行政資料室にある雑誌は、中央官庁や財団などから寄贈されているものも多く含まれ、数量にカウントされている。資料は庁内から集まってくるものは配架されている。他市の取組と比較しつつ、利用する側から見て、多摩市の新しい課題の解決に役立つような資料を積極的に収集・提供するようになると良いと思う。

委員長： 事務局から、傍聴の皆さんからのご質問・ご意見の紹介をお願いします。

事務局： ○行政資料室のあり方、進むべき方向を理解したが、中央館計画においては

・行政資料部門は同等のものにすべきなのか。

・何かを減じて行政資料室を中心とすべきなのか。減じるとすれば何か。

講師： 何か所か多摩市内の図書館を視察した。市民の利用が多く、よい活動をされていることがわかったが、資料6 p.19「(6)総合的な資料・情報の活用」にも書いたとおり、中央図書館で図書・データベース・児童書・地域資料があり、一か所で用が足りるところがあればと思う。中央図書館ができることで、行政資料室を残さない選択もある。

浦安市立中央図書館をみると、蔵書の豊富さ・揃っていることの大切さが解る。多摩市は検索をするとあちこちの図書館に資料が分散している。アマゾン等ピンポイントで本を買うことと違い、調査利用の場合は様々な資料との出会いが大切で有効。分散せず、そこに行けば資料が揃っている、調査が間に合うような利用ができる図書館を目指していただきたい。

事務局： その他の意見・質問を紹介する。

○多摩市の地域資料は内容が見にくいと聞いた。数字を大きく表示するなど工夫をお願いしたい。

- 行政資料室に議会の議事録がなかなか届かない。問い合わせしても時間がかかる。公開を早くするにはどうすればよいか。
- 市民団体の出した資料を行政資料室に置いてもらうにはどうすればよいか。事務局からも、集めた方がよいものなど事例があれば、お教え下さい。
- 地域資料係職員： 議会の議事録に関しては、議会は速記録をまとめる必要があるのでは、時間がかかるようだ。
- 講師： ○市民活動資料の収集について
- ・資料6 p.20に記載している。「会報・機関誌・広報誌、文集・報告書・記録集、ビラ・チラシ・ポスターなどの資料」
 - ・『2010市民メディア・ミニコミⅡ -多摩からの200誌-』のように冊子としてまとまると良いが。
 - ・集めるのは大変な作業だが、幅広く集めると活動している人々の参考になり、相互作用がある。役立つよう収集し提供するようにしたい。
- 事務局： その他の意見・質問
- 図書館の基本は、人(職員/司書)・資料・施設と言われている。
図書館職員の養成と新規採用に気をつけることについてお教え下さい。
→これについては、今後の検討委員会で議論をしていく。
- 専門的な内容だったので、市民よりは図書館の職員が知識とする必要があることだと思う。市議はこのような内容を知っておくべきだと思う。市議が参加していないのは残念。
- 多摩市財政は公的資金のやりくりで行政が行われている。現在150億円強の借入。現在計画されている図書館48億円、陸上競技場15億円、パルテノン85億円・・・一人35万円の負債となる。今後、人口減・高齢化・収入減に対応する図書館は予想利用者数ほどのくらいか。
- ・現在までの図書館プランは建物ありきであるので計画の見直しを求める。
 - ・アクセスはバス停を近くに持ってくる。
 - ・市民に提供する図書館サービスのレベルをはっきりと。
- 委員長： 頂いた意見を参考にしたい。

2. 全館資料の再編と新本館の資料構成

- 委員長： 事務局から議事に関する資料の説明をお願いします。
- 事務局： 資料2「地域資料に係る行政資料室と本館の機能について」、資料3「全館資料の再編と新本館の資料構成」を説明。
- 委員長： 本日は資料全般に関して議論する。傍聴の方からの質問にもあったが、サービスの水準・方針も含めて議論したい。サービスを実現するために資料がある。目標なしに議論はできない。
- 戸室氏の講演にもあったが、資料の提供には職員が重要。収集・整理・提供には優秀な職員が必要だが、職員に関しては次回以降で議論していく。
- 委員： 基本構想に「資料世界構築」とある。中央図書館でないと集められない資料は、きちんと収集・提供することが大切。市民活動の支援をするための資料の収集・提供も民主主義の保障の観点から重要と考える。市民から縁遠いという意見もあったが、新図書館に置くべきだと考える。例えば中野区立中央図書館では、各自治体から集めた資料を利用しやすい分類で配置しているうえ、その土地でないと集まらないものもしっかり収集している。
- 地域資料は郷土資料と呼ばれていた時代があった。国立市にはたましん地域文化財団の歴史資料室があり、資料室での雑誌編さんに伴い集まる資料を提供

していた。(郷土史の編纂などを通じ)地域で発生する歴史的なものも含めて、収集する体制が必要ではないか。

新聞スクラップは全国各地の図書館で作成されていて、地域の代表的テーマについて書かれた記事を相当深く集めている。「灰色文献」の説明があったが、出版物でないものの収集は大切。系統立てて収集・整理・提供をしたい。

委員：

新聞切り抜き、パンフレット等は多摩市でも提供している。永山図書館にあるイベントのチラシのファイルが分厚く、見せ方に問題があるかと思う。新聞切り抜きや雑誌の目次紹介はデジタル発信等にすると良いのでは。(事務局注：近年、新聞切り抜き資料の提供は、著作権の問題があり扱いが難しくなっている。)

今回、図書館を巡って様々な運動が起きた。こういった時に、国立国会図書館の予測調査のようなことをして、行政資料室が市民に判断材料を提供して欲しい。

全体的な資料収集の方針として、『多摩市政策情報誌 Vol. 6』にキャッチフレーズ「調べ物なら、本館へ!」「身近で、新鮮!」などと書いてあるが、そうあってほしい。こういう役割を求められていて、基本構想にもそう書いてある。中央図書館は、そこに行けば目的が果たせるような資料構成であって欲しいので館籍が必要だと思う。

委員：

地域資料のあり方について、中央図書館に全てあればよいというわけではなく、役割分担が必要と思う。現在でも予算書・パブリックコメントなど、地域に必要なものは地域館にも置いている。

前職での経験で、教職員向けに作成した学校のアレルギー対応マニュアルを図書館にも置いてもらったところ、市民から問い合わせがあった。取り組みの内容が理解できたので、それを受けて自分の子どもの対応をしたいとのことだった。教員・学校向けのものも置き、図書館で見られることが重要だと感じた。地域館を含めて取り組みたい。

副委員長：

多摩市の行政資料は納本制度があるのか、またそれは、きちんと履行されているか。

地域資料係職員：

「庁内印刷物取扱要綱」があり、7冊提供してもらうことになっている。毎年度通知し、提供されないものは催促している。

副委員長：

「灰色文献」の収集は極めて重要。紙媒体でない資料も増えている。インターネット上で公開されて、いつのまにかリンクが切れてしまうものも多い。国立国会図書館ではデジタルアーカイブの取り組みがあるが、多摩市はどう考えているか。

事務局：

公式ホームページで公開されている資料の取り扱いだが、今のところは紙媒体+電子データという形式が多い。計画段階でのデータは見られなくなることもある。市では「オープンデータ」という取り組みを行っていて、加工できる形でデータを提供している。今後、収集しアーカイブ化していくことも必要かと考える。

副委員長：

アーカイブ化は良いと思う。そうなるように希望する。

委員：

「庁内印刷物取扱要綱」によって計画書や報告書は確実に収集できるが、市民が最も知りたいと思う検討中の政策の情報公開について考えたい。

市議会特別委員会など傍聴できるもの・YouTubeでの収録公開もあるが、議論のまとめを紙媒体で読みたい人もいる。委員会資料の取り扱いもまちまちで、傍聴者が持ち帰りできないこともある。行政資料室にタイムリーに資料が出れば良いと思う。行政資料室は土日が休館なので、本館に複本があると良い。

委員：

役割分担について確認したい。行政資料室は中央図書館整備後も存続するのか。また、地域資料で行政資料室にあって本館にない資料はあるのか。

事務局：

○行政資料室にある資料について説明

・多摩市の行政発行物

- ・ニュータウン関係の資料
- ・市職員の勉強になるような、入門的資料
- 本館にない資料（行政資料室にのみ配置）
 - ・市の様々な審議会の資料と会議録
 - ・政党新聞（土日は本館に配送している）

○本館にしかない資料

- ・ニュータウン関連資料（本館に仮置きしていて、今後公開を検討中）

行政資料室の存続について、事務局では新本館整備後もなくす考えはない。

委員： 武蔵野市立中央図書館では、市政資料コーナーに2.3万冊の資料がある。市民から休館の時にどこかで見られないのか、という要望があり、各館でそれぞれ集めている状況。武蔵野市にも収集要綱がある。資料を集める方と出す方の意識の差があるので、意欲的に収集する必要がある。

委員： 戸室氏の講演は、図書館の資料収集・提供について歴史的なことから改めて学ぶことができ大変参考になった。

川崎市の図書館で勤務していて考えていたことだが、図書館が資料を整備することは、市民の生活にどう役立つか、費用対効果なども問われる。

多摩市の図書館計画においては、自己判断自己責任型社会になっていることを考えた上で具体的にどうするかということが重要なテーマになっていると思う。このことが資料構成にも直結する。地域資料の収集・提供は市民の皆さんには抽象的なことに感じられるかもしれないが、生活・地域、とりわけ市民個人レベルの生活課題関連支援（課題解決）を看板に掲げ、役立つことを実感していただければ共感を得られる。課題解決というサービスはかなり以前から始まっているが、全国的にも、実際に利用された経験がある人の割合は少ない。サービスの方向性をしっかりと打ち出すと、市民に理解を得やすい。

もう一つ大切なことはデジタル化、ICT化。すべてを図書館でできれば良い。川崎市では、公文書館・市民ミュージアムの資料・情報を図書館と一体的に扱えないか検討した。オンライン化・ネットワーク化して市内あちこちにある資料を編集・検索していく能力があることが、市民にとっても大きな力になると思う。情報・資料を使いこなす力を市民一人一人がつけていくことを図書館が手伝うことも大事なことはないか。紙資料・一次資料そのものをどうしていくかも大切だが、検索可能にして「見える化」することを検討してはどうか。そういったことは、行政・公共施設で図書館が一番有効な力を持っている。

委員： 図書館の資料収集は刊行物中心で、それを市民活動資料の収集まで広げていくのは大変だが、市民が資料を利用して、互いに学び合えるようになってほしい。コミュニティセンターに行くと、市民グループのチラシや案内が置いてあって活動が解るが、見ることができるのはその時点のものだけ。収集・保存して閲覧できるようにすれば、市民活動を豊かにすること、広がることにもつながるのではないか。

委員長： コンセプト・考え方については、ほぼ納得できるような意見が出た。自己判断・自己責任型社会になってきていて個人や組織を支援するというのは大前提で、そのために集められる資料は何でも集めるということ。要綱にあるものだけを収集するということになりがちだが、あらゆるものを集めると良い。例えば、浦安市立中央図書館では、新聞折り込みのチラシの収集をしていた。スーパーの広告で商品の値段の変化が解る。図書館が定点観測写真を撮影し記録することもやってきた。多摩市の図書館は地域資料の収集については実績があるので、戸室氏の資料を参考に収集すれば強化されるだろう。

心配なのは「灰色文献」について。これは地域の資料である、と思いつかなくて収集しなければなくなってしまう。収集を積極的に行う意欲的な職員を養成する必要がある。また、市民活動資料を収集・提供するときに、近くに関連す

る資料を配置するなど、図書館ならではの強みを活かした資料提供が考えられる。

見つけるための手段には、物流が有効。どこに資料を置くか議論されたが、どこにあっても資料請求するために配送システムが必要。市域が狭いのでバイク便も良いのでは。

資料のボリュームを考える必要がある。地域資料だけに留まらず、全般にご意見をいただきたい。

委員： 資料3「全館資料の再編シミュレーション」について、どう読み込むか考えていた。地域館にある動かないものを本館に移動するという事は、資料の数としては理解できるが、地域館で動かないものを本館に持ってきても古い本ばかりになってしまうのではないか。新館準備のための新規購入が2.5万冊で良いのか、疑問がある。

委員長： 資料3「資料収集計画に関連した主な論点」も念頭に、議論していただきたい。

委員： 資料3「新本館資料構成のイメージ(目標値)」で開館時の開架冊数が20万冊となっている。私からも、新規購入冊数が2.5万冊で良いのか、足りるか。ご意見をうかがいたい。

副委員長 新規購入冊数が2.5万冊というのには、私も疑問を持っている。

資料8「多摩市立図書館 出版年ごとの貸出比率」を作成したので、ご覧いただきたい。図書館からデータを得て、開架されているNDC分類33:経済の1991年以降の刊行物を対象に調査した。貸出比率が10%を超えるのは出版から5年以内の図書で、新しい図書ほど借りられる傾向がある。

だからといって、古い資料が必要ないわけではないが、一般的に利用者が魅力を感じるのは新しい資料で、開架が新鮮でないと落胆する。新しい資料との組み合わせで古い資料は利用されるという傾向がある。

資料3「新本館資料構成のイメージ(目標値)」によると、新本館開館時に開架冊数は10万冊増える。今のペースで資料購入していくと古い資料ばかりになってしまう。新館に向けて資料を購入していく必要がある。

委員： 松本副委員長の観点はとても大切。過去2つの新館で、開館から10日程度で想定以上の貸出のために棚から本がほとんどなくなってしまった状況があった。建て替えの場合、単純に新しい本の買い増しだけでは、貸出が伸びるので新しい資料が無くなり、建物は新しいが資料は古いものが残り、目立つことになる。武蔵小杉駅前の新図書館立ち上げ準備では、貸し出しが大幅に伸びることを考慮し、新タイトルの購入に加え、既存資料についても、出版後10年以内で回転数が多かった図書・32,100タイトル・4万冊の買い換えを行った。買い換える図書を選定し装備・登録する作業も必要になるので、資料費だけでは難しい。作業費も含めて予算化した。

開館しても資料が足りないようでは、市民からの大きな不満、マスコミからの疑問を呼ぶ、などということもある。予算化するために議会、行政幹部、財政当局を説得する資料を作成して準備した。

委員長： 蔵書規模の議論になるかと思っていたが、新館準備の予算まで展開した。

モダンな建物ができるとう図書館に来なかった人も利用するようになり、貸出が10倍になる、などということもよくある。そこで利用者をつかむために、魅力は資料の豊富さ・新鮮さ。浦安市でも蔵書冊数30万冊を超えたあたりから利用が急に増えた。早めに資料購入を計画する必要がある。

現在の本館は開架冊数が拠点館並みで、もの足りない。新しい中央図書館では踏み込んだ専門書が必要となる。仕事の報告書を作る、アレルギーについて調べる等これまでの利用の仕方と違ってくる。蔵書数が増えるとピラミッドのように底辺が広くなり、開架で接するタイトル数が増え、専門的なものも増え

ることになる。これが重要なポイント。

多摩市は高い利用実績があるが、さらに自己実現を支援するサービスに広げていく。そういった視点でどのくらいの資料が必要か検討したい。実際に予算がつくかという付度は、後回しにしたい。

委員： 資料3「新本館資料構成のイメージ(目標値)」の雑誌タイトル数について。資料は新鮮なものが良い、という議論もあった。武蔵野プレイスでは600タイトル「そこその専門性,即時性そして娯楽性」に着目した、とのこと。予算としては頭が痛いところではあるが、一方で、資料3「多摩市と浦安市の比較」では地域館へのタイトル振り分けの現状をまとめ、浦安市と比較している。多摩市と浦安市では中央図書館のタイトルカバー率に大きな差がある。物流が大切だという意見もあったが、地域館にどのように振り分けていったらよいか。浦安市ではどのように工夫されているか。

委員長： 浦安市は中央図書館の規模が大きく他は分館の規模で、中央図書館に資料が集中する。多摩市とは蔵書規模の構成が大きく違うことも関係していると思う。浦安市では分館は日常使いの資料があるところ、図書館の蛇口と考えている。また、駅前に予約本受け取りコーナーがあり夜9時頃まで開いていて、分館並みの貸出がある。しくみの違いがあると言えるだろう。

委員： 雑誌は新本館に200タイトルとして、現状より購入数を増やすのか、拠点館・地域館のタイトル数を絞るのか。

事務局： タイトル数は検討中。浦安市の分館と多摩市の地域館は蔵書数としては同規模だが、多摩市はタイトルを分散して配置している。基本的に配置する雑誌の種類を決めて、それ以外のものは地域館から中央図書館に持っていけるか、といったこともこれからの検討となる。

委員長： 言葉は悪いが人寄せに雑誌、と昔の図書館では言われていた。日本の雑誌は趣味娯楽に偏重しているが、アメリカの図書館は雑誌の購入数が多く、大きな図書館では2千タイトル程となることもある。専門誌が多く、目次検索が発達しているのでレファレンスにも役立つ。多摩市の図書館では、娯楽系と専門系に分けて議論する必要がある。

委員： (地域館が多数ある)他の都市を比較してみると、実感として全体の蔵書の3割から5割程度が中央図書館にあるのではないと思う。中央図書館にどの程度の比重で本を置くか、同規模人口の他都市と比較した資料3「新本館資料構成のイメージ(目標値)」はあまり参考にならない様に感じる。中央図書館で様々なサービスを行うのに、この蔵書規模でよいかとも思う。

漫画を収集するか。研究者のレポートを見てもマンガのコレクションを充実している図書館は全国的にも少ない。手塚治虫など評価が定まっている作品は収集しても良いと思うし、少なくとも蔵書の収集方針に漫画も加えることによって相互貸借の選択余地も広がる。鮮度が求められるものまで中央図書館に置く必要があるか、予算との兼ね合いも含めて検討したい。

地域資料について、東日本大震災の被災3県の経験も考えると歴史資料を残すことはまちづくりに大切。ニュータウン形成史だけでなく、ここから巣立った人も郷土に戻ってきたときに地域の形成史を確認できるような蔵書構成となれば良い。

規模を考えた上で、中央図書館にはできるだけフルラインナップで配架し、その後に拠点館に振れるものも考えていってはどうか。

委員： 雑誌のタイトル数については、地域館の魅力化を考えると複本で置くことも大切。調布市と浦安市の地域館の蔵書構成を視察したが、旅行の部門だけ見ても雑誌や・紀行本も地域館に揃っている。ある程度の複本は必要だと思う。

委員： 資料3「資料収集計画に関連した主な論点」に、雑誌コーナーに固めるか、専門誌を各分野に分けて配架するかとある。資料をどう置くかは建物の面積バラ

ンスにも関係する。行政資料室を利用することがあるが、専門誌など最新の情報が手に取れて仕事に活かせるようにしたい。予算や全体のバランスも大切ではあるが。

委員： 資料3「資料収集計画に関連した主な論点」で、視聴覚資料については収集範囲も考えどころで様々なジャンルがあるが、楽しむためのものであれば街にはレンタルショップもある。図書館で収集すべき範囲について、浦安市や川崎市ではどうか。

委員長： 視聴覚資料・漫画・多文化資料なども議論したい。これまでは拠点館といっても規模が小さかったので収集が難しかったが、蔵書数や面積が多くなると集めやすくなる。どのように考えるか。

副委員長： 視聴覚資料は利用形態が多様化し、クラウドサービスなどもある。図書館でも移行していくかもしれないと想定し、計画をしたい。視聴覚に限らないが、施設として作り込みすぎると変更できない。

委員長： 視聴ブースなどを作り込んでしまうと他に転用しにくい、ということか。その他、複製絵画の貸出などのサービスもある。アメリカではポピュラーなサービスで、来客がある時に借りて家に飾るなどという利用がある。こうした多様な資料の収集・提供が規模の大きな図書館では可能だが、どのように考えるか。

委員： 川崎市は政令指定都市で人口150万人、しかし資料費は1億円と少ない。貸出も予約も非常に多い。雑誌については、本来どの図書館にも多くを置けると良いのだが、7つの区の図書館で分散配置している。雑誌にも予約がかかる。学術誌のみならず少し前の週刊誌も貸出の要望がある。レファレンスでも記事レベルの提供を考えていく必要がある。

資料をどう収集するかということは、どのようなサービス・提供をするかということ。予算に限りがあるので、どの図書館にどのような役割を担わせるか・量・あり方を利用者に理解してもらうことも必要。見直しをする場合も、本館と他館の役割を明確化してアウトプットする必要があると思う。

委員： 雑誌の専門性によって分類配架(混配)するか別置するか、検討する必要がある。武蔵野市立中央図書館では別置している。レファレンス本の置き方も共通するが、揃っているのは見た目が良いが、調べものの参考にする場合は一般書も利用される。吉祥寺図書館は、スペースの関係もあって混配にした。コーナーの作り込みは将来のスペースの変化を考えて検討すべきだ。

委員長： 日本のレファレンスは辞書・事典が欧米に比べて少ないため、一般書を中心に行われている。したがって、一般書の質・レベル・専門性が高くないとレファレンスができない。図書が一か所に集まっていることも必要。

市民が図書館を利用する気分になる心理的距離は15分と言われているが、これは移動手段ではなく時間距離。魅力のある図書館へは30分かけてでも出かけるだろう。現在の新本館の規模想定では心理的距離は15分程度だろう。市域が狭いのでどこからでも車で20分と考えれば、極端な話、中央図書館1つでも良いかもしれない。

雑誌については、利用者の殆どが既に購入しているが、同一分野の他の種類も見たいという希望があるようだ。そういったことも考慮したい。

3. パルテノン多摩と図書館でつくる「ひろば」

委員長： 事務局から議事に関する資料の説明をお願いします。

事務局： 資料4「パルテノン多摩・図書館 連携のイメージ」の説明

委員： 3月にまとめた「第三次多摩市子どもの読書活動推進計画」に障がい者に向けたサービスの充実をするよう提言があった。児童向けには様々な資料があっ

て、布の絵本・マルチメディアデイジーなど図書でない形態のものもある。資料4のイメージ図に「じょうぶな絵本、障がいのある子どもにマルチメディアサービス」とあるが、パルテノン多摩4階に「ライブラリー&カフェ with キッズ」があり、賑やかなのでいろんな形態の資料を置くことに適しているのではないか。多くの市民の目にふれるという意味で、図書館だけでなく、こちらにも置いてはどうかと思う。

委員： 障がい者サービスは、一部を永山図書館に残して中央図書館に拠点を置くというイメージだったが、役割分担はどうなるのか。中央図書館では物理的にアクセスしやすい場所に作れるのか。

また、イメージ図ではギャラリーは下の階にある。ギャラリーは、浦安市立中央図書館を見学した際、職員の力が発揮できる場所、という印象を受けた。メインの入口になるところに展示スペースがあるとよいと思う。

委員： ラーニングcommonsについて、最近のトレンドの様で大学図書館には多い。一面に座席が広がっているという光景もある。図書館は資料世界をしっかりと見せることが大切。開架書庫も事例が多く、少し古い資料に接架できるのは良いが、ラーニングcommonsで面積が圧縮されたためにそうなっているとしたら、どうかと思う。面積に余裕があれば良いが、本来の機能があるべきスペースが圧迫されないようにしたい。

委員： 資料1：ヒアリング「多摩市文庫連絡協議会」に「公民館的な部屋貸しとしないで、図書館活動に関わる活動支援の場を」という意見があった。図書館の運営にあたって、文庫活動やボランティアグループが子どもの読書活動推進や障がい者支援に協力してくださっている。図書館のギャラリー・集会室はそういった活動の拠点として考えたい。

一方で100人規模のワークショップができる部屋、といった希望がある。規模の大きな部屋での活動はパルテノン多摩で考えられないか。関戸公民館で勤務した経験では、大きな部屋がある場合は、適切な管理・運営をするのにスタッフが必要。スペースの都合もあるし、図書館員の負担にならないようにしたい。

委員： 永山図書館は公民館併設なので、図書館に集会室は作らなかった。図書館に関連した活動を行うときに公民館の集会室を借りてもらうが、複合施設であっても公民館の事情もあるので、制約が多く希望の日時にならないこともある。

要望している集会スペースは、図書館の企画のための部屋で機能を固定するイメージはない。永山公民館の集会室は定員が54人程度なので、もう少し規模の大きい部屋があれば良いと思う。

副委員長： パルテノン多摩と中央図書館で、役割を整理すると良い。普段は片方の施設しか使わない人の「ついで利用」も発生し、シナジー効果が期待できる。ふたつの施設が近くにあるのはメリットが多い、効果が期待できることを詰めていってはどうか。

委員： 児童サービスについて、パルテノン多摩に子どものコーナーが出来るのは良いと思う。施設が近くにはあるが、パルテノン多摩の4階に子ども図書館に行くというのではなく、遊ぶのに良い本や保護者向けの本をアウトリーチ的に置くイメージだろう。本の世界にじっくり浸る、というのは図書館でという役割分担だろう。

「第三次多摩市子どもの読書活動推進計画」では、障がい者サービスに重きを置いている。障がい者向け資料はパルテノン多摩に置いて良いが、必要なものは図書館にまず整備されるべきだ。

資料4にある「しずかな『おはなしの部屋』」というのは誤解があるように思う。静かに聞いてもらうというわけではなく、おはなしの世界に浸るために、独立した外部からの音に邪魔されない部屋が必要だ、ということであって、お

はなし室が静かな部屋ということではない。

委員： どちらかの施設をいつも使うという人が多い。パルテノン多摩の4階に来た親子連れを図書館に誘う仕掛けを考えたい。図書館から出前・アウトリーチなどのようなもので4階に取りかかりの本があって、さらに深い本は図書館にある、というような連携かと思う。

 図書館のギャラリー・集会室は、図書館活動のために必要だと考える。ホールはパルテノン多摩にあるので、様々な活動ができるスペースとして作り込み過ぎない部屋にできれば良いのでは。

委員長： 実物が無いのでイメージの議論になっているが、連携ありきで無理をして、ここにこれがあるのでこれをやめてという議論ではなく、多摩市の将来が豊かであるための図書館がどうあるべきか・どういう機能を持つべきか、という議論の上に計画を作っていくべきだ。ラーニングコモンズやメーカースペースも図書館の中と外では意味が違う。集会室も図書館の中にあることで、活動や議論の中ですぐに資料にあたることができる。恵まれている環境ではあるが、パルテノン多摩がすぐ近くにあるので悩ましい。

 大石委員の意見のように、最終的には図書館に本質的な機能を優先して配置していくことになるだろう。個人的な感想としては、新しく面白いものはパルテノン多摩に行ってしまう、中央図書館は従来型になってしまいそうで残念。全国的には、近くに大きな集会施設があることは贅沢な環境であるので、恵まれた状況をさらに良くするように考えていきたい。

○ 事務連絡

事務局： 次回、第5回検討委員会は5月13日午後1時から、市役所西会議室で行う。大きなテーマは「運営計画」。資料の事前公開を5月2日に予定している。市民の皆さまの意見も受け付ける。

○ 市長挨拶

市長： 本日から三期目の任期に入り、この会議への参加が初仕事となった。

 メディアで仕事をしている頃、日比谷図書館・国立国会図書館をよく利用した。図書館は取材や史実を調べるには宝の山で、インターネット・ウィキペディアなどが無い時代では図書館で調べるしかなかった。検索機能もなかったのでレファレンスに頼っていた。雑誌の記事も図書館員に聞けば出てきた。時事・海外情報・文献など、当時の図書館員は詳しかった。ところが、多摩市に引越して関戸図書館を利用したときに、レファレンスに対する職員の反応が違ったので、あれ？と思った記憶がある。

 多摩市の小学生はSDGs(持続可能な開発目標)の17目標を覚えている。図書館が対応できれば、変わってくる。インターネット上でもフェイクニュースで溢れている。正しい判断ができるように情報を備え、図書館が力になればと思う。図書館に関する議論に期待してる。

 将来を担う子ども達や地域のためになるように、税金を使う意味があるものにしたいたいと考えている。